

MIRAIへ続く全国防草ブロック工業会 2016年「愛知環境賞」を受賞しました



受賞テーマ：世界初の防草機能を持つ道路二次製品（雑草が自ら成長を止める・初期コストアップが無くメンテナンスフリー）



資源循環や環境負荷の低減を目的とし、先駆的で効果的な事例を、企業団体及びグループから募集し、優れた事例を表彰し、広く紹介することによって、新しい生産スタイルや生活スタイルを文化として社会に根付かせ、資源循環型の形成を促進させることを目的としております。

全国防草ブロック工業会(所在地：愛知県豊田市、矢野コンクリート工業(株)内)が全国展開する道路二次製品(防草ブロックと防草グレーチング)名称：エレファンドレン)は、第12回「2016愛知環境賞」【主催：愛知県、共催：環境パートナーシップ(EPOC)、中日新聞社)を受賞しました。

受賞式典は平成28年02月18日、ローズコートホテル(名古屋市中区)で開催され、会長・矢野明正氏(中)が登壇し、EPOC会長安井 香一(東邦ガス(株)代表取締役社長)より銅賞を授与されました。

愛知環境賞は、2005年愛知万博の開催に合わせ省資源や省エネルギー、リサイクルなどに関する優れた技術や活動を表彰し、全国に向けて愛知の環境技術・活動のレベルの高さを発信しており、愛知県が創設したものです。愛知県内の企業・団体等の技術、事業が対象とはいえ、国内工業出荷日本一を誇り、モノづくり技術が集積する産業県として、環境施策への取り組み企業も多く、愛知環境賞は多くの企業目標とされている。今回金賞に輝いたのは、トヨタ自動車(株)の水素CAR、燃料電池自動車の「MIRAI」が受賞し、銀賞はトヨタ車体(株)の生物多様性保全と環境学習機能を備えた「刈谷ふれ愛パーク」の地域ESD活動のモデル化。続いて全国防草ブロック工業会（防草ブロックと防草エレファンドレン製品）が銅賞を受賞しました。また、年々各業種、産業における省資源・エネルギー・3R・資源循環・環境負荷低減に関する効果的な技術や事業、また活動と教育等、各分野様々な環境施策への取り組みも増えており、大手企業の受賞が多いのも本賞の特徴である。

矢野明正会長は「受賞企業には日本を支えてきた大企業の先端技術・製品の受賞が多く、道路土木業界である私達の受賞は、大変嬉しく栄誉な事と喜びを隠せません」私たち製造メーカーにとっても、次世代へ繋がる環境製品として、各製造会社の環境意識も受賞を機に益々高まり「次世代へ繋がる道路インフラ整備として貢献していきたい」と述べている。

防草ブロック・グレーチングの特許技術は 第41回「発明大賞」本賞を受賞しました



受賞考案の名称：植物の特性を利用した防草技術

発明大賞は、独創性に富む発明によって優秀な技術・製品を生み出した中堅・中小企業の方々及び個人を表彰し、その功績を広く一般に紹介し発明の推進を図ることを目的とするものです。

全国防草ブロック工業会（所在地：愛知県豊田市、矢野コンクリート工業(株)内）が道路二次製品、防草ブロックと防草グレーチング(名称：エレファンドレン)に採用する特許は、第41回、「発明大賞」【主催：(財)日本発明振興協会、日刊工業新聞社、後援：文部科学省、経済産業省、特許庁、中小企業庁、東京都、日本商工会議所、日本弁理士会、東京商工会議所、(地独)東京都立産業技術研究センター】を受賞しました。受賞式典は平成28年03月15日、明治記念館(東京都港区)で開催され、特許考案者となる防草研究会の石川重規氏(写真)が登壇し、日本発明振興協会会長・原昭邦氏より「本賞」を授与しました。



発明大賞は、中堅・中小企業の優秀な製品・技術に光を当てて、わが国の科学技術、産業の発展に寄与するという賞として、昭和50年(1975年)に創設され、以後、毎年実施し、今回が41回目の表彰となりました。審査の評価は、道路二次製品に採用されている本特許技術は、従来からある防草製品を使用する必要がなくなり、植物が自ら成長を抑制することから、大きな経済効果と環境負荷低減を実現できる。そして、現在の道路インフラへの採用・構築が容易で、特に我々生活利用や今後の社会にとっては、不可欠な環境施策となる特許技術であることなどから、他の特許製品と比べ極めて高い評価を得て本賞受賞となった。また石川氏は「私の特許技術は、2000年頃より父の実証検証から始まり二人三脚で作って来ました。15年が経ち、多くの皆様からのご指導を頂きながら、全国防草ブロック工業会の力で広く利用されるようになったことも、本賞を頂いた大きな評価となりました」と、今後も引き続き、皆様からのご指導を頂きながら環境施策の目に見えない小さな部分ではありますが「新たなモノづくりに挑戦していきたい」と、述べている。

【防草製品・技術に関するお問合せ先：全国防草ブロック工業会事務局0565-43-3700】

◆ 第12回 愛知環境賞 平成28年2月18日受賞

資源循環や環境負荷の低減を目的とした、先駆的で効果的な<技術・事業><活動・教育>の事例を、企業、団体及びグループから募集し、優れた事例に対する表彰を行うとともに、広く紹介することによって、新しい生産スタイルや生活スタイルを文化として社会に根付かせ、資源循環型の形成を促進させることを目的としております。

【主催】 愛知県

【共催】 環境パートナーシップ CLUB (EPOC)、(株)中日新聞社

選考委員長 架谷 昌信 (名古屋大学名誉教授・愛知工業大学教授)

副委員長 他選考委員に関しては公表していません。

【講評】 愛知県大村秀章知事

愛知環境賞は、2005年愛知万博の開催に合せて、県内企業や県民の皆様の省資源や省エネルギー、リサイクルなどの優れた取組事例を表彰する事で、資源循環型社会の形成を促進するとともに、広く全国に向けて「環境都市あいち」を目指す本件の環境技術や環境活動のレベルの高さを発信する目的で創設したものであります。この賞が、受賞された方々の励みとなるとともに、全国の皆様の環境意識の向上につながることを期待し、環境パートナーシップ・CLUBの皆様と一緒に始めてもので、今回ではや12回目を数えます。賞の選考に当たっては、愛知工業大学の架谷委員長を始め、当地域を代表する学識者の方々に多数ご参画をいただいております。この愛知環境賞そのものが、全国的にも例のない産学行政の連携による環境ビジネスや環境活動促進の独自の取組であると自負しているところでございます。今回の愛知環境賞についても、水素社会の実現に向けた先駆けとなる製品や、地域社会や多様な主体との連携・協働による環境活動の実施、植物の特性を活用した独自の製品など、高い技術力や知恵と工夫を凝らしたハイレベルの応募を多数いただきました。残念ながら受賞に至らなかった方々を含め、応募者の皆様に心から感謝を申し上げます。 (以下省略)

◆ 第40回 発明大賞 平成28年3月15日受賞

環境賞とは、環境保全に関する調査、研究、開発、実践活動で画期的な成果を上げ、または成果が期待されるものとし防草ブロックの防草技術は、複数の研究機関や大手企業の実験技術と並んで受賞されました。

【主催】 (財)日本発明振興協会、(株)日刊工業新聞社

【後援】 文部科学省、経済産業省、特許庁、中小企業庁、東京都、日本商工会議所、日本弁理士会、東京商工会議所、(地独)東京都立産業技術研究センター

審査委員長 菅野 卓雄 (東京大学 名誉教授)

審査委員 (東京大学名誉教授)

// (自然環境研究センター 理事長、東京大学 名誉教授)

// (国立環境研究所 理事長)

// (日本工業大学教授・工業技術博物館 館長)

// (理化学研究所 名誉研究員)

// (東京工業大学大学院 教授)

// (九州大学大学院 教授)

// (環境省 総合環境政策 局長)

※上記コンテストの主催者、後援者及び審査員の明記、人物写真の使用等は各省庁と主催者の承諾のうえ記載しており
全国防草ブロック工業会及び会員以外での使用・コピー配布は禁止します。 【発行元：防草研究会】

日本雑草学会会員

jWBA 全国防草ブロック工業会
植物の特性を利用した防草技術